時代区分III （4）-尖閣諸島の開拓に関する資料

尖閣諸島とその開拓について紹介する記事

No.39 尖閣郡島事情

報H26/P12 1898年（明治31年）7月17日付琉球新報記事

尖閣郡島事情

尖閣郡島ハ八重山列島の一にして從來魚釣島と稱する無人島なり之れより東北に拾六海里を隔て久場島と稱する一島あり海圖に低牙吾蘇島と記せり何れも異名同島なるべし古賀辰四郎氏官許を得て此處ゑ拓殖事業を企画し其監督として尾瀧延太郎氏の漁農夫卅余命を引連れ那覇港を出帆したるは本年五月二十四日近場同氏より黒川屬ゑ宛通信の要領を得たり該島の狀況を觀ゑに足るべきゑ付左に之を掲ク

尖閣郡島は數個より成れる島嶼ゑして東經百二十四度四十分北緯二十五度五十分に位せる東支那海中の小群島なり其島大なる者は周圍凡そ二里高サ一千百八十一フート（ホアンセヽス）と稱し之れに亞ぐ者は周圍二里高サ六百フートあり黄尾島（チヤウス）と云ふ是れ實ゑ予か今回船より放棄せられたる無人の孤島なり當島ハ南北に長く東西に短くして恰も隧圓形をなし圍らすに岩石を以てし島中到る處岩を累ね跣足歩行すべき處なし然れとも山頂及山腹に數ヶ處の大凹處あり底は平且ゑして石なく且樹ゆて肥沃なる黒色土なり此土ハ數百年來鳥糞と混交し殆んと八工肥料の如し草木蔚蒼其重なる樹木ハ久場樹、青桐、篠、茨等の類ゑして久場樹の如きは長さ拾八尤間廻り五六尺ゑ至るものあり當島は四圍巖石屹立し恰も鋸齒の如く港灣の船を寄する處あ一然れとも天惠に〻西岸に當り袂狀の一大迂處あり此は天然の良港にして水深く二三の暗礁を除去すれは容易に五六十噸の船舶を容るヽことを得へし從來渡航したる者ハ皆此海岸に住居を構へ吾等も茲に居所を構へたり氣候は渡航後日も尚淺けれは未た判明せされとも沖繩本島より暑きを覺ゆ（寒暖計破損して温度明かゑするを得す遺憾とす）未た各郡島皆跋渉せさるを以て探協の上后日更に報告する處あるへし云々

所蔵：沖縄県立図書館

資料概要

尖閣諸島の開拓について伝える1898年（明治31年）7月17日付の『琉球新報』記事。開拓に従事する尾瀧延太郎からの通信文を掲載する形で尖閣諸島の様子を伝えている。

通信文の前には、古賀辰四郎が官許を得て尖閣諸島の拓殖事業を企図し、その監督として、尾瀧延太郎が漁夫、農夫30名あまりを連れて那覇港を5月24日に出港したことが記されている。

内容見本

尖閣郡島事情

尖閣郡島は八重山列島の一にして従来魚釣島と称する無人島なり。之れより東北に十六海里を隔て久場島と称する一島あり。海図に低牙吾蘇島と記せり。何れも異名同島なるべし。古賀辰四郎が官許を得て此処に拓殖事業を企画し、其監督として尾瀧延太郎氏が漁農夫三十余命を引連れ、那覇港を出帆したるは本年五月二十四日（略）

作成年月日	1898年（明治31年）7月17日
編著者	尾瀧延太郎（通信文）
発行者	琉球新報社
収録誌	琉球新報
言語	日本語
媒体種別	紙（マイクロフィルム複製本）
公開有無	有
所蔵機関	沖縄県立図書館
利用方法	沖縄県立図書館で利用手続きを行う

本サイトに掲載する資料等は、政府の委託事業の下で有識者の助言を得て、調査・収集及び作成したものであり、本サイトの内容は政府の見解を表すものではありません。